



2012.10.5

No.225

MONTHLY

# れんごう

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発 行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

出 村 良 平

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろうビル6F TEL(011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

## 「働く女性のつどい IN 十勝」を開催 「非正規」問題をめぐり労組の役割を学ぶ

連合十勝地協と帯広地区連合は、9月22日、「働く女性のつどい IN 十勝」を開催した。十勝地域での「女性集会」は、5月に続き2回目となり、5月開催から今回の取り組みの間、2回の女性代表者会議を開催し、前回の総括とミニ学習会を取り組む中で今回の「つどい」を迎えた。

取り組みの目的は、連合十勝地協として4月に実施した「非正規雇用労働者の実態調査」の結果を基に「非正規」の取り巻く情勢や実態から、労働組合の果たすべき役割について学んだ。

「非正規」の多くは女性労働者であり、有期雇用が長期化する中で「雇い止め」に不安の声が65%となった。

今回の「実態調査」の結果の分析を行った北海学園

大学の川村雅則准教授から問題提起を受け、約90名の参加者は真剣に耳を傾けた。

問題提起の中で、(1)「労組として制度・政策要求は大事だ。一方で、それを勝ち取る・守らせる職場の闘いが重要」、(2)「企業内最賃の闘いの重要性」、(3)「公契約条例の制定の取り組み」など、「実態調査」の結果と分析を受けて、今後の運動に対する課題が強調された。

十勝地協は、今後の運動に活かすべく、今回の「女性のつどい」を継続させながら、組織全体の運動へ高めるために奮闘する決意を確認した。

〈この記事のアドレス〉 [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2012092201\\_womenintokachi.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2012092201_womenintokachi.html)



## 「はたらく女性の集会」を開催 男女平等参画の実現に向けて行動を

「はたらく女性の集会」は、雇用・労働環境における男女平等を進め、両性がワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができる社会をめざし、働く女性が集まり、情報交換と課題の共有化、労働組合として取り組むべきことを明らかにすることを目的として開催されている。

今年は9月8日にホテルノースシティにて開催され、7産別、3地協から約140名の参加があった。

はじめに、連合北海道女性委員会山田悦子委員長から、女性委員会の取り組みとして初の分散会開催に触れ、「お集まりの皆さん、今日の集会をもとに男女平等参画の実現に向けて、一人ひとり、自分が何ができるかを

考えて行動するきっかけにしていただきたい」という挨拶があった。

その後、連合本部総合男女平等局の中島圭子局長から「労働組合における男女平等参画の取り組み～男女が生きやすい社会環境作り」と題した基調講演をいただいた。

急速に少子高齢化が進む日本では、女性の就業率の向上なしには社会が維持できないこと、その実現のためには公正な待遇と賃金が保障されることが重要であり①税や社会保障制度を共働きモデルに変更すること②男女の就業継続を可能とする両立支援策の拡充をすること③女性の非正規雇用率が53.1%であり、非正規女性労働者の均等・均衡待遇の実現が大きな課題。労働組合として非正規労働者の組織化を進めることができることなど、日本の女性労働の課題と、あらゆる立場の労働者のディーセントワーク実現のために労働組合がなすべきことなどについて示唆に富んだお話をいただいた。

基調講演を受けた後は、11の分散会に分かれ、職場の現状（①両立支援制度 ②研修・昇進などの機会均等）と、これから各職場で取り組んでいくことなどについて意見交換した。

分散会報告では、「どの職場にも出産・育児・介護についての制度は多少なりともあるが、必要とする人が必

要な時に言い出しやすい職場環境であるかないかで大きく違いが出る。上司・同僚の理解や配慮がきちんとされる職場環境づくりが必要である」との意見が出された。そのような環境づくりのためには、制度の周知徹底や1、2名の欠員が出てもカバーし合えるような人員配置を求める必要ではないかという意見も出された。また、研修・昇進の機会均等については、基本的には機会均等になっているものの、全道・全国転勤が必要な役職や勤務時間が長くなる管理職については子育てや介護を抱えている人は希望しづらいという声もあった。

最後に中島局長から「民間も公務も労働条件については労使関係の中で決めていくもので、女性が働きやすい職場づくりについても労使交渉で求めていく必要がある。また、非正規の組織化を進めていくことも重要」と分散会のまとめと感想をいただいた。

講演で学んだこと、分散会で得た他産別や各地域の情報をそれぞれ持ち帰り、自分たちの職場や地域の仲間に伝えることから始め、「働くことを軸とする安心社会」実現に向けて一歩づつでも前に進む決意を固め合った集会となつた。

〈この記事のアドレス〉 [http://www.renko-hokkaido.gr.jp/report/2012090802\\_workingwomen.html](http://www.renko-hokkaido.gr.jp/report/2012090802_workingwomen.html)



## 連合エネルギー政策学習会を開催 渡島地協・桧山地協などから約100名参加

3.11大震災以降、建設が中断されている「大間原発」を対岸に抱える道南地域において、「連合の新たなエネルギー政策の検討について」と題して、9月8日、渡島地協・桧山地協合同の学習会が開催された。

この学習会は、6月末の連合中央PTにおける「エネルギー政策総点検・見直しの基本的方向性について」のまとめを受けて、その内容や基本的考え方について認識を共有化していくことを目的に行われたものである。

「ホテル・函館ロイヤル」で開催された学習会には、

渡島地域協議会及び桧山地域協議会構成の産別・単組・地区連合会から役員を中心におよそ100名が参加した。

冒頭、連合渡島地域協議会・荒木会長が主催を代表して挨拶を行い、「様々な産別が結集し、極めて難しい環境と条件の中でもまとめられた内容について充分に理解し合い、今後の運動に生かしていくかなければならない」と参加者に訴えた。

連合本部から川島・総合政策局長を招き、連合北海道からは坪田・政策局長が参加し、最初に、連合北海道・

坪田政策局長から、連合北海道における「エネルギー・環境政策委員会《中間整理》」のポイントについて説明がなされ、今後の《まとめ》に向けて更なる論議と検討を積み重ねていくことが提起された。

引き続き壇上に立った川島・総合政策局長からは、エネルギー政策総点検・見直しPTにおける論議のポイントや課題、今後の検討の進め方について、約1時間にわたり提案が行われ、国政へ対する対応や、国民の理解・納得・合意に向けた取り組み等々、連合としての取り組みの重要性について提起された。

北海道及び中央PTに対する質疑・討論においては、様々な角度から数多くの意見・要望等が出された。主な意見は以下の通りである。

- (1) まとめにあたっての苦悩は充分に理解できる。
- (2) 活断層問題を含め、国の言う『安全』に対し連合の立場で切り込みを入れるべき。
- (3) 命と健康問題の観点から、全体的に取り組みが遅れているのではないか。
- (4) 原発事故問題とエネルギー政策問題は分けて論じるべきではないか。代替エネルギー問題についてもっと積極的に論議を進めるべきではないか。
- (5) 道南も含め、全国各地で原発再稼働反対に対する



る反対集会が開催されている。国民のニーズと連合の方針がかけ離れているのではないか。

(6) 国に対して、政策転換の姿勢を明確にすることを求めていくべき。全国で配布される副読本では、未だに放射能の危険性を訴えるものにはなっていない。

(7) 「核と人類は共存できない」と受けとめている。広島・長崎の体験からも明確に政策転換を訴え、再生可能エネルギーへの早期転換を実施すべき。

他にも、多くの意見・質問・提言等が出され、川島総合政策局長よりそれぞれの課題について、現時点における考え方、捉え方、進捗状況が示され、最後に今後の取り組みに対する方向性が提起され、更なる理解と協力が訴え、質疑討論を終了した。

閉会にあたり、挨拶に立った連合桧山地域協議会・佐藤会長は、「対岸に建設が中断されている大間原発を抱え、無関心ではいられない。今後も様々な機会を捉え、積極的に学習を積重ねつつ、取り組みの強化を図っていかなければならない。」と参加者に訴え、予定時間を大幅に超えた学習会を終えた。

〈この記事のアドレス〉 [http://www.rencho-hokkaido.gr.jp/report/2012090801\\_energy-oshimahiyam.html](http://www.rencho-hokkaido.gr.jp/report/2012090801_energy-oshimahiyam.html)



## 「願う」平和から「叶える」平和へ 「2012平和行動 in 根室」を開催

「『願う』平和から『叶える』平和へ。つながろうNIPPON」のスローガンのもと、9月8日から9日の2日間にわたり「2012平和行動in根室」が開催され、全国から多くの仲間が参加した。

8日は、北方四島交流センターにおいて「北方四島学習会」が開催され、のべ600名が参加した。学習会では、5つのセミナーに分かれ、それぞれ元島民の思い、島の現状や課題、また食文化等について、過去から現在に至るまで様々な視点から北方四島について学んだ。

続く9日、納沙布岬・望郷の岬公園において、「2012平和ノサップ集会」が開催され1400名の仲間が結集した。

主催者挨拶にたった連合古賀伸明会長は、旧ソビエトによる不法占拠を受けてから67年経った今も、北方四島一括返還がされていない現状や現在ロシア政府が進めている北方四島開発、メドベージェフ首相による国後島視察強行など取り巻く状況について触れ、こうしたことを踏まえて連合が取り組むべき課題として「一つ目はビザなし相互交流をこれまでの文化交流や

対話交流に加えて、長期滞在あるいは経済交流を含めた戦略的な交流を検討する。二つ目は北方四島にかつて日本人が住んでいた証しとしての日本建築物の再建について関係団体との協議に入ること。さらに三つ目として元島民の方々の語り部継承運動へ着手し、戦争の悲惨さを風化させることなく平和活動を未来へつなげるため、青年を中心とした次世代の語り部育成に取り組む」と述べた。

最後に「皆さんのが語り部となり職場や地域で語り伝えることが、運動の真の広がりと深まりにつながると確信している。返還が実現するまで運動を続けていくことを約束する」と力強く結んだ。

続いて地元北海道を代表し挨拶にたった連合北海道工藤和男会長は、「元島民の高齢化が進む中にあって、島民の切実な願いの実現に向け、日本政府は日ロ両国の平和と友好、信頼関係を一層醸成させ、日ロ平和条約を締結することが必要だ。北方領土がロシアに実効支配されているという現実を再確認し、粘り強い外交を積極的に進めるべき」と日本政府に対し求めた。

また、「元島民の訴え」として、高橋孝志氏が、当時島を追われた悲惨な状況について語った。そして「目の前に見えるこの島は日本人の財産。どうか今まで以上にこの領土問題に関心を寄せていただき、世論を高めてほ



しい」と訴えた。

引き続き、平和リレーが行われ、平和4行動スタートの地、沖縄ヘービースフラッグが受け渡された。最後に、地元釧根地協佐藤久夫会長が四島一括返還を願った力強い団結がんばろうで締めくくった。

連合北海道は、今後も北方四島の一括返還が実現するまで、職場・地域にいる仲間とともに北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。

〈この記事のアドレス〉 [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2012090901\\_peace-nemuro.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2012090901_peace-nemuro.html)



## 10月の主な動き

### ■組織拡大担当者情報交換連絡会

1日（月）15:00／連合北海道

### ■第3回地方連合会代表者会議

2日（火）14:00／連合会館

### ■第63回中央委員会

3日（水）10:00／ホテルラングウッド

### ■ディーセントワーク世界行動デー記念 シンポジウム

5日（金）18:00／共済サロン

### ■食・みどり・水を守る道民の会植樹祭

14日（日）8:30／支笏湖

### ■第13回執行委員会

16日（火）10:30／連合北海道

### ■エネルギー・環境政策委員会

17日（水）10:00／センチュリーロイヤルホテル

### ■最低賃金改定周知街宣行動

17日（水）12:00／札幌駅前

### ■最低賃金改定周知相談ダイヤル

18日（木）10:00～19日（金）／連合北海道

### ■第13回中央執行委員会

18日（木）13:30／連合会館

### ■第2回労働法出前講座

19日（金）18:30～20日（土）／旭川トヨーホテル

### ■最賃履行確保要請行動

22日（月）11:00～23日（火）

### ■北海道原子力防災訓練調査

24日（水）／後志管内

## イベントカレンダー

### 連合北海道 第25回年次大会 開催のお知らせ

連合北海道第25回年次大会を  
以下の日程で開催します。

とき

2012年10月25日（木）

9:30～

ところ

ロイトン札幌

3F「ロイトンホール」